



UCIA ニュース

発行 宇治市国際交流協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書広報課内
電話 0774-22-3141 (内線2058) FAX 20-8776
Eメール hishokohoka@city.uji-kyoto.jp

第 97 号

令和7年(2025年)1月

グラウンド・ゴルフ国際大会に参加して

宇治市国際交流協会 理事 今川 博

2024年9月26日・27日の2日間、グラウンド・ゴルフ(以下GG)発祥の地「湯梨浜町」で「GG国際大会2024」が開催された。宇治市GG協会のメンバー9名とスリランカ国メンバー4名、合計13名もの大所帯で参加する機会を得た。

スリランカには私たちの「宇治市」と友好都市であるヌワラエリヤ市があり現在宇治市国際交流協会の指導とサポートで「スリランカ国GG協会設立」を目標に準備を進めている最中である。代表のチャンドラー＝セガラム氏はヌワラエリヤ市出身で宇治市にも数回来訪され、我々がヌワラエリヤ市を訪問した際は大変お世話になった方でもある。今回の参加はスリランカ国にGG協会を設立する準備活動の一環としての視察・参加であった。

今年は猛暑である上に、台風の発生数も多く当日の天候がなによりも心配事であった。出雲に全国の神様が集合される「神無月」のおかげか大会の2日間は正に「GGに適した天候」となり競技を楽しむことができた。会場となった、ふるさと公園「潮風の丘とまり」は日本海に面した小高い丘陵地にあり日本海からの心地よい潮風を感じる素敵な場所である。全面天然芝の4コースは芝の手入れも行き渡り最適のコンディションでプレーが出来た。

大会にはスコア順位の表彰以外「ホールインワン」賞があり、これが非常にユニークなゴールデンボールで大会参加者の「垂涎の的」となった。私も運よく「Get」国際大会2024が刻印されており細やかな「宝物」である。スリランカの皆さんとも意気投合、参加者全員思い出に残るたのしい大会であった。

大会参加者：216名 / 大会参加国：11ヶ国 / 大会1位スコア：68点
参加国：韓国、モンゴル、スペイン、スリランカ、ポーランド、アメリカ、イギリス、中国、台湾等



ホールインワン賞のゴールデンボール



グアム島をサイクリングで走る

宇治市国際交流協会 理事 川野 智

私の最初の外国訪問は、学生時代に訪れましたグアム島でした。関西の学生交流協会の行事でサイクリングを通じて大学生がグアム島の表敬訪問をするというものでした。関西の10近くの大学から自転車部を中心としたメンバーが揃い、私はそのリーダーとして参加しました。

初めてグアムの国際空港に到着したときは夜でして、暗闇の中に生暖かい空気を感じ、南国に着いたと感動したことを今でも覚えています。ホテルで一泊した後は、早朝からメンバーの体調管理や自転車の調整に追われ、あわただしく出発しました。

走ってみて驚いたのは、日本と違って道路が地形に沿って付けられていたことです。つまり日本だと山あり谷ありのところに道を付けるのでしたら多少なりとも山を削るや谷を埋めるなどして道を平らにしていますがそれが全くない!

上り下りがきつくて大変でした。そして、現地の中学校への訪問と子どもたちとの交流、知事室(準州)への訪問などあわただしく日程をこなしました。知事のお嬢さんに、親しくして頂いたのがうれしい記憶となっています。

その間、テントも学校の敷地内で張ったのですが、夜間、警察のパトカーが警護してくれていたのを今でも覚えています。

そして、一週間の間、現地のアメリカ人新聞記者がずっと同行してくれていまして、彼のアパートでシャワーなどをお世話になりました。その際、トイレとシャワーがコンクリートのたたきに直接設置されているのを経験し、映画で見ているのとは違って、アメリカ人の生の直の生活を感じることができたのを今でも覚えています。

この生まれて初めてのホームステイの経験から、外国の方との直の生活を通じた交流がほんとに大切だと感じました。同時にツアー会社の旅行では、感じることもない外国の方との「お客様扱い」ではない、生活交流の重要性を知り、今後もこのような活動を大切な一つにしてゆきたいと思っています。

PACIFIC DAILY NEWS, Thursday, December 27, 1973—Page 3

Program 20 Funds Exhausted

The cycling tour was sponsored by the International Student Exchange Service (I.S.E.S.), headquartered in Osaka, Japan. Begun in 1970, the non-profit organization now has student exchange programs with various universities on the U.S. mainland and Canada. Cycling tours are scheduled at various times during the year.

Last March, I.S.E.S. arranged for another group of Japanese students to live with host families here on Guam. For many of the visiting students, this was their first chance to experience an American-influenced culture and test their English conversational skills on native speakers.

"Our Japanese students like Guam very much," said Kenji Takahashi, who works full time for I.S.E.S. but they wish that more students from this island would visit their country either on organized tours such as high school senior trips or on an individual basis. I.S.E.S. can arrange for Guam students to stay with host families in Japan if they would like to experience the country's real culture. We will also give guidance for those students who wish to study abroad in Japan.

Further information on the organization may be obtained by writing to the director at No. 406 Tenbin Bldg., 2-35 Kyomachibori Nishiku, Osaka, Japan.

"On the success of this cycling tour," Takahashi said, "we may decide to sponsor a few each year of Guam if we meet with good local response. And we may even try to arrange a program through one of the high schools here by which a group of their students can cycle through the mountain countryside of Japan."

The visiting students rented their bicycles here from the Guam Miyata Rent-A-Cycle shop which has its main office in the Fujita Hotel. Although not officially open for business until the middle of next month, owner Kumo-Kubo learned of the I.S.E.S. tour and made special arrangements so that the students would not have to bring their own bikes from Japan.



READY TO GO. (Daily News Photos by Ronn Ronck)

Pacific Daily News 記事; 1973年12月27日

英会話(初級・中級)講座を開催

宇治市国際交流協会 理事 奥村幸子

今年度の講師は初級クラスがイギリス出身のカリム=ヴィーク氏、中級クラスは前年度と同じガーナ出身のサミュエル=アサレ氏を講師としてお招きして、10月30日から11月27日までの各水曜日午後7時から1時間30分で5回にわたって英語講座が開催されました。昨年度は中・上級のコースで15名の募集が即日満席になりましたが、講座内容が難しいとのこと意見もあり、

中級クラスの内容を少し易しくされました。

今年度は初級クラスが8名、中級クラスが6名でした。昨年度のコースが難しかったので、今年度は初級講座を選択したという方が数名いらっしゃいました。

アサレ先生の中級コースでは、発音、アクセント、文法などを丁寧に少し日本語も交えて説明していただきました。

又、最近のトピックをお話して、間違ったところを先生が訂正してくださったり、もっと相応しい表現を教えてもらったりと受講者間での会話も弾みました。

初級コースの先生はとてもフレンドリーな方で身近な英語を楽しく学んだり、連想クイズのように受講者がヒントを出して先生が答えたりと盛り上がっていました。両講座とも受講者の皆さん方は和気あいあいとてもいい雰囲気でした。

受講者からはもっと継続してほしいと希望がありました。



英会話初級クラスの様子



英会話中級クラスの様子

ベトナム語入門講座

語学講座講師 グエン タイン

"xin chào mọi người" グエン タインと申します。日本で8年間ぐらい働いています。日本のことが好きですから。

ずっと、日本で働こうと思った私は日本語を頑張って学んで、第二の言語として使いたいです。近頃、労働基準法が多少変わりましたが、変わる前は3年しか日本で実習しませんでした。変更後、ずっと日本で働けるようになりました。それで、外国人の労働者がだんだん増えてきます。そのうちに、ベトナム人も多くなりました。最近、円が安くなっても、外国人の労働者があまり減っていない状況です。会社では日本人が少なく外国人の方が多いです。それで、仕事の為にコミュニケーションをとることが大事です。外国人の方は、日本語が上手なら仕事とか生活が楽になります。もし、日本語が分からないなら工場に同じ国の先輩がいますので通訳してもらいますからあまり心配していません。一方、日本人の方は母語だけでは足りないと思っている方が多いのではないのでしょうか。本当にみんなと仲良くしたり、仕事でお互いやりとりするときに、もう少し外国語がわかっていたら良かった、と思われるかもしれません。その理由で、色々な外国語のクラスが行なわれています。

私は京都に住んでいて、ここにはベトナム人が特に多いです。私の会社はほとんどベトナム人がいます。普通、あまり日本語を使わないし、日本人とコミュニケーションをとることが少ないです。それで、ベトナム語を学びたい日本人の声が多くなりました。

2021年から、宇治市でボランティアとしてベトナム語を教えている私は、今年も皆さんが愛好してくれて参加しました。去年より今年の講座が始まる時期がちょっと遅かったです。参加者は去年と同じでしたが、途中で用事があって辞めた人は二人で



授業の様子



調理実習の様子



実習日当日調理したベトナム料理

す。ベトナム語が難しくて発音が言いにくいという声が多いです。私はベトナム人ですけど、たまに、説明が難しかったです。でも、皆さんは理解してくれて分からない時にインターネットで調べて、本を参考にしてくれました。質問があれば、紙で書いて次の授業で答えしました。毎回、1時間半ぐらい皆さんと一緒に頑張って勉強しました。本当にその様子を見たら感動しています。私はベトナム人ですから、ベトナム語を必死に学んでいた皆さんを見たら、やる気がいっぱいになって日本語も頑張って勉強しようと思っています。8回だけど、経験と面白いことが多かったです。最後の日、調理実習で皆さんと集まってベトナム料理のバインセオを作りました。去

年の生徒さんも参加してくれてとても楽しかったです。皆さん、初めて食べたんですけど、お口に合ってたたくさん手伝って食べてくれて嬉しかったです。

ベトナム語を一生懸命に頑張ってくれてありがとうございました。これからも、今年行われた外国語の授業がもっとありますように。私は今回の授業が色んな経験を学んで役に立ちました。本当に日本の皆さんとベトナム語でしゃべれるぐらい教えたかったです。でも、経験不足でまだまだ伝えられませんでした。皆さんは頑張って少しでも毎日練習してくださいね。また今度、皆さんに会えたら、ベトナム語で挨拶しましょう。

◆◆◆◆ 日本語支援ボランティア養成講座を開催 ◆◆◆◆



日本語支援ボランティア養成講座は、過去10年以上10～11回講座で学習及びボランティア募集のために開設されてきましたが、昨年度から5回講座で開催、今年度は協会のボランティア・ティーチャーが主に講師となって実施されました。

1講座目は、京都府国際センターから近藤氏を迎えて、日本全体のさらには京都府、宇治市の外国の人々の現状をピンポイントで詳しく話していただきました。5講座で終了するという受講のしやすさから、募集当日で20名の定員が埋まってしまい、先着で処理されたので、希望された方々には残念な思いをさせていただきました。特

に5講座目の、異なる文化背景を持つ外国人学習者を迎えての体験教室の学習会では、受講者の自信を深め、皆さんアットホームな雰囲気楽しんでいられました。

講座日数が少なかった分、今後は、受講者自身での日本語学習の大切さや、在住外国の人々の多文化交流への接し方を理解して、さまざまな形の交流社会が未来の日本を創造することになるのでしょうか。多くのボランティアさんが日本語教室の活動に携わってくださることを願っています。

(宇治市国際交流協会 K.I.)



雑観雑感

最近、多文化共生という言葉があらこちで使われる様になりました。人目につく駅や病院、公共施設などで案内板や電子ボードが複数の言語で表示され、在日外国人に対しても地域の中で生活出来るようにサポートしています。又、公共交通機関では、多言語対応の車内アナウンスが導入されています。しかしながら自然災害（地震・津波・台風・豪雨・洪水）が起きた場合、或いは生死に関わる問題が発生すれば、対応は全て変わってきます。安心と安全を願うなら、より正確な情報を在日外国人にも伝える責任があります。昨今、被災地で入念な取材活動をする各地のコミュニティFMは的確な情報を被災者に提供。被災者同志が情報を共有することにより強固な仲間意識が生まれたと聞いたことがあります。この際、もう一度原点に戻り、宇治市でのFM宇治放送の活用を提案します。英語、中国語、スペイン語、韓国語、ベトナム語の放送枠を設け、普段は『趣味や娯楽』『料理』『音楽』などエンターテインメント番組として多文化共生のラジオ局として位置づけてほしいものです。

(S.T.生)